

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、中国を中心とする東アジアの通史について概括的に扱う。大学入学までに学習した世界史(特に中国史)の内容を復習するとともに、専門家が扱っているような諸資料や近年の諸研究によって判明した新知見も積極的に取り上げる。これにより、歴史的知識を受動的に学習するだけでなく、歴史の中に潜む疑問点や問題点を自ら探し出せる目を養ってもらいたい。

前期では殷からモンゴル帝国まで、後期では元から現代中国までを扱う。

2. 授業の到達目標

- ・中国通史の概要を理解する
- ・中国の各時代の時代相や雰囲気把握する
- ・中国史の中に潜む疑問点や問題点を積極的に探そうとする姿勢を身につける

3. 成績評価の方法および基準

- ・平常点(授業態度など)40%
- ・授業内試験60%

4. 教科書・参考文献

教科書

『世界の歴史』編集委員会編 『新もういちど読む山川世界史』 山川出版社

参考文献

木村靖司ほか編 『詳説世界史研究』 山川出版社

5. 準備学修の内容

- ・教科書を用いて毎回の授業の予習をしておくこと
- ・授業終了後、配布プリントなどを見直し、授業内容の概要について振り返るクセをつけておくこと

6. その他履修上の注意事項

- ・私語など、他の受講者の迷惑になるような行為は控えること
- ・授業内容をただ鵜呑みにするのではなく、その中から積極的に疑問点や問題点を探し出すように努めること

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス
- 【第2回】 殷・周:甲骨・金文の世界
(教科書p43-44)
- 【第3回】 春秋・戦国時代:覇者と諸王と遊説家たち
(教科書p44-46)
- 【第4回】 秦・楚漢:出土文字資料から見る統一政策の実態
(教科書p46-47)
- 【第5回】 前漢:「郡国制」の展開と儒教「国教化」
(教科書p48-49)
- 【第6回】 新・後漢:「儒教国家」と政治混乱と「名士」社会
(教科書p49-50)
- 【第7回】 三国時代・西晋:「名士」社会から貴族制へ
(教科書p61-62)
- 【第8回】 五胡十六国時代・南北朝:北方遊牧民の進入と貴族社会
(教科書p62)
- 【第9回】 隋・唐1:拓跋国家と閥隴集團
(教科書p63-64)
- 【第10回】 唐2:五代十国時代:安史の乱と兩税法
(教科書p64-66,68)
- 【第11回】 北宋:士大夫社会と遼・西夏
(教科書p69-72,73-74)
- 【第12回】 金・南宋:靖康の変と岳飛・秦檜
(教科書p70,74)
- 【第13回】 モンゴル帝国1:チンギス=ハンの覇道とオゴタイの苦悩
(教科書p74-75)
- 【第14回】 モンゴル帝国2:帝国の分裂
(教科書p75-76)
- 【第15回】 総括と試験